
神に迫る刃

メリ～さん?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神に迫る刃

【Nコード】

N3657Q

【作者名】

メリッさん？

【あらすじ】

人を助けようとして、事故にあい、死に、転生。

そんな転プレ街道まっしぐらで進んだ、マンガの事なんてほとんど知らないのに、マンガの世界へほんの少しの力と知識を貰い旅立つ主人公。

どうなるのかは、誰も知らない。（作者もね☆）「おい!?!？」

1話「始まりの日」(前書き)

始めはまったく原作に関与していません。気長に見てくださればありがたいです

1話「始まりの日」

「はーい、じゃ、素振り50回よろしく。」

俺の名前は桐崎^{キリサキ} 刃^{ジン}この神斬流道場、現頭首。

つーか両親が死んでから継いだから俺自身は17歳なんだけどなあ・
・・

はあ、ダリイ。

「50回やったら今日は解散で良いから。俺あっち居るからなんかあつたら呼んでくれ。」

「「はい!!!」」

祖父ちゃんの代まではこの道場はここで一番大きい道場で、最強剣術とか言われていたらしい（俺も良く知らんが）道場破りなんかも有ったとか無かったとか・・・

まあ、最強剣術も時代の流れには無力らしかった。

父や母の代にはそこそこに門下生も居たが、その親父達も死んだ。

今はもうこの道場に居るのは数人。

他にはもうここに来る必要が無い程強くなった人とかがたまに来る。

「はあ、なんで俺はこんな道場続けてんだろおなあ・・・あゝ、めんどくせえ。」

俺は両親が死んでから親戚に頼み込み、この道場を継いだ。

あの時は何か必死だった。何かを無くさない様に、必死で・・・

思い出でも在ったんだろうか？

あまり良い思い出なんぞ無いとは思うが。

祖父ちゃんが生きてた時には
2年生の夏休みに知らない土地の山に放り捨てられ、1週間程サバ
イバルしたり。

冬休みには痛いような寒さの中海に放られ……
更に翌年の夏は気絶させられ知らん国の軍用地の近くに置いて行か
れ、

『大丈夫、食料ならあの倉庫に沢山在るぞ?』

とか言って……

あれ、良く考えると俺、道場で修業した時間すんげえ少ないぞ?
しかもやってたの祖父ちゃんが死ぬまでだから……えーと?

ああ、中3の時にやめたんだったなあ。
なんでやめたんだっけ?

「あんなに強かった祖父ちゃんも死ぬんだなあ、とか思ったんだっ
け?

人間何処まで行っても神さまの手の上で踊らされてるとか考えると、
やってられなくなったからなあ。」

「師範、素振り終わりました。」

「んあ? おう、じゃあ解散で良いぞ?」

そう言えば。俺って喧嘩とか勝負で負けた事なんて殆どねえな……

・
祖父ちゃんと親父と母さん以外には……今は負ける気はせんが。
まあ、俺人間じゃありえないような技まで伝授されちゃってるしな
あ。

「散歩でも行くか。」

そう言って胴着から普段着に着替えて俺は車道に出た。
すると近くの公園でボール遊びしている子供達が居る。

「元気が良いなあ。」

少し微笑みを浮かべながらそれを見ている。
しかしその幸せな光景は一つの轟音でかき消される。

ゴシャアアン！！

トラックと乗用車がぶつかりトラックのほう公園の方に突っ込んでいく。

「くそっ！」

それを見た俺は子供達の所まで走り、遠くに投げる。
・・・痛いだろうがすまん。

「まあ、もつと痛い思いすつから許してくれや。」

グシャ！

~~~~~

「まったく、なんて事をしてくれたんだか。

この御人好しが！月に告白23回されてファンクラブまで有って町の人気者でイケメン野郎があ！！！！

・・・言ってて虚しくなってきた。」

「誰だ。あんた？」

「ああん？ か・み・さ・ま！ 神様、わかるか？ GODだ。」

「……だめだ、こう言う奴は斬らねえと後がめんどくせえって祖父ちゃんが言ってた。

なぜか手に持っている剣で斬っちゃおうか？

「刀を抜こうとすんなバカたれえい！」

「チッ！！」

「ふん、よりにもよってコイツがなんで引っ掛かるかなあ？

まったく、天界女性陣にまたゴチャゴチャ言われるんだろなあ。はあ。

人間の癖に天界にまでファン作ってんじゃねえよ！」

意味が解らない。

やっぱ殺したほうが……

「はあ、さつきも一時間以上……

っ！ か！ お前がああのおトラックを避ければ問題なかったのによお！

何だよそれ！ この世界軸でそんな事は物理的に不可能だろうが！！

！ 子供片手で投げるとか！

はあ、まあ仕方ねえよなあ。大天使長もお前のファンだし……

はあ、なんで俺ってば部下に怒られてんだろか？」

「そんなに溜息つくなよ。幸せが飛んでくぞ？」

「ふん！良いんだよんなこたあな。  
取り合えずお前を転生させる。」

「つーかやっぱり俺ってば死んでんの？」

「お前は死んでる。強盗が逃走の為に盗んだトラックが原因でなあ？  
ったく、お前はアレでは死ななかったのに・・・」

「俺は、ってあの子供達は！？」

そう言うともっと顔をゆがめ

「忌々しい事にお前以外の死傷者ゼロだよ。」

本来コッチに来てた子供が死ななかったから魂のバランスがグツチ  
ヤグチャだよコンチキショー。

朝まで徹夜で残業だ。」

「なんだ、良かった。」

「ちっ！トコトン嫌な感じで良いやつだな。」

それにしても神にも残業ってあんだな・・・

「で、転生だ。どっかのマンガの世界にな。  
ほんの少しの力と知識、アイテムを三つくれてやる。一つはその剣、  
もう一つはこの鎖。そして最後にこの槍だ。」

「はあ？」



「じゃ、行つて来い。」

そう自称神が言う俺の下に黒い穴が………  
へ？

「こんのクソ神イイイイイイイイ！ちよ、おま！いつか文字  
通り俺の流派で斬つてやるかな！覚えときやがれええええええ  
！！！！」

俺は叫ぶ事しかできなかったのであつた………

~~~~~

そして時は流れて14年位？……え？飛びすぎ？何いつてんのか
解らんなあ？

神からもらった力も使いこなせるようになった、が俺はマンガなん
て読まなかつたので、ここがどんな世界かわからない。まあ、魔法
がある世界、としか解らなかつた。
で、俺が今どうなっているか……

あれえ？何故だろう。世界が逆さまだ。

木に引っ掛かつて宙吊りになつてる……

「はあ、解っちゃ居るんだよ？途方もなく怪しいよねえ？でもねえ。
俺は怪しい物じゃあないんですよ？」

「……取り合えず、降りるのを手伝おうか？」

「……お願いします。」

「む、取れない。この蔦異常に頑丈だな。」

「あのーだいじょう「あ、取れた」いでっ!？」

「大丈夫か？」

「はい・・・ありがとうございます」

いっでー! たんこぶでき・・・てないな、うん。

それにしても・・・

俺は助けてもらって人のほうを見る。

「・・・天狗？」

「烏族だ。なんだ、知らないのか? こんな辺境の地に迷い込んでいるのにも拘らず。」

烏族・・・烏族?

なんだそれ。カラス?

「後ろの人たちもお仲間ですか？」

「む? 後ろ・・・逃げるぞ！」

「え!?! 何々! 何なの! アンタこいつらと一緒にじゃないの!？」

「ウチは少しばかり事情があるのでな。」

なんだよ! 仲間を追われる事情って何だよ!

「くっそ！アンタこいつら倒せないのか！それか俺が切るが！？」

「ダメだ。後々めんどくさい事になる。」

そっか、めんどくさい事は嫌ですもんねえ？

そして俺達は何とか逃げ切ったのでした。

「はあ、しんどっ！」

「まあ、逃げ切れたんだし良いではないか。協力もしてくれた事だしウチに來い！」

酒を振舞ってやるぞ！おい！今帰ったぞ！」

「おかえりなさい、お父様。」

「お歸り。あら？お客さん？」

え……え？あゝあゝ、そう言うこと。種族が違う奴らが結婚したらそりゃ反発も生まれるなあ。

「こんにちは。」

「あら？人？」

「はっはっは！コイツは木に引っ掛かってな。拾ってきた。」

「色んなトコはしょんな。」

「気にするな！ほら、刹那。挨拶だ。」

「こ、こんにちは、桜咲刹那です。」

髪が白い……アルビノって言うのか？

「ははは、緊張しなくて良いんだよ？」

「そう言えば俺の名前もいっていなかったな。桜咲羅剛だ！それと妻の刹利だ。」

どこの世紀末伝説だよ。

「俺は桐崎 刃だ。よろしくな？」

「はい！」

「お、元気良いなあ。何歳？」

「4歳です！」

4歳か。確りしたんだなあ最近の子は。

どっかの金髪と赤髪に見習わせたいな。

……いや、どっちももうガキじゃねえか。

そんな事を考えていたら羅剛が酒を出してくれた。

「はっはっはっは！そら飲め飲め！」

「はっ！言われなくてもドンドン飲むぜえ？」

そうして夜は更けていくのであった。

1話「始まりの日」(後書き)

次回行き成りシリ阿斯展開。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3657q/>

神に迫る刃

2011年1月28日04時03分発行